

# Challenging

# OTSUMA Ranzan



大妻嵐山  
ここでなら  
できそう。

Otsuma Ranzan Junior and Senior High School

Global Eco-Science School

埼玉県比企郡嵐山町菅谷 558 0493-62-2281 大妻嵐山中学校高等学校 2021.1.1

## 【置かれた場所で咲きなさい、面倒だから、しよう】 始業式…校長講話より…

今日の校長先生の講話では、36歳でノートルダム清心女子大学の学長に任命された渡辺和子さんが書いた、「置かれた場所で咲きなさい」と「面倒だから、しよう」という2冊の本が紹介されました。

「置かれたところで咲きなさい」。これはどういうことなのでしょう。咲くということは、笑顔で幸せに生き、周囲の人々も幸せにすることによって自身の置かれた場所が、間違いではなかったと、証明することだそうです。しかし、どうしても咲けない時は、無理に咲かなくてもいい。その代わりに、根を下へ下へと降ろして根を張ること。次に咲く花が、より大きく、美しいものとなるために…とも言っています。

そして、2冊目の本、「面倒だから、しよう」。そもそもおかしな日本語ですね。「面倒だから、よそう」が当たり前。人には皆、苦勞を嫌い、面倒なことを避け、自分中心に生きようとする傾向があります。置かれた場所から自分らしく咲くとは、このような安易な方向に逃げる自分と闘うことなのではないでしょうか。

いずれにしても、「自分の置かれた場所で咲く」ために、自分のできることを、常に新鮮で丁寧な気持ちで取り組み、「面倒だから、しよう」という意識で、適時・適切に実行し、立派な花を咲かせることが大切なのです。

コロナの緊急事態宣言で始まるこの1年。大変だからこそ、世界に一つだけの君たちの花を咲かせましょう。

## 【大妻コタカ先生を偲ぶ日】 …目指すは日本一の『心美人』! …



皆さんは、1月3日は何の日かご存知ですか？その日は大妻学院の創始者である大妻コタカ先生の命日です。本校では冬季休業中のため、その1か月前の12月3日を「大妻コタカ先生を偲ぶ日」としています。ここで、「偲ぶ日」に行われた生徒会長井坂さんのお話を紹介いたします。

皆さん、ごきげんよう。生徒会長の井坂恋菜です。私は今回このような機会を与えていただき、コタカ先生の本を読み、言葉だけでなく、人柄についても知ることが出来ました。この日を通して皆さんもコタカ先生から

の教えをもう一度胸に刻む良い機会になればと思います。

さて、今回私は「感謝の心」についてお話します。コタカ先生は「人に用を頼むときは『すみません』『お願いします』『ありがとうございます』という言葉をおぼれずに常に感謝する気持ちをもって生活しましょう。」などと学生に呼びかけていたそうです。また、「会社には監査役があるが、私はすべてのことに感謝する感謝役です。」とおっしゃっていたそうです。感謝の心と聞いて皆さんは何を考えますか？当然だと思ふ感謝することを最近忘れがちになっていませんか？私自身、感謝の心について考えた時にそれこそ当たり前だと思ふ、全ての事には感謝できていないと感じます。ですが、この本をきっかけに小さいことでも感謝の心を忘れずにいたいと思ふました。コタカ先生を偲ぶ日を機に、「感謝の心」を思い出し、どんな場面でも、常に感謝の気持ちをもって生活していけたらいいと思ふます。皆さんもこの日をきっかけに普段から感謝を伝えることができるのか、見つめ直してみましよう。最後になりますが、図書館にコタカ先生についての本がありますのでぜひ手に取ってみて下さい。ご清聴ありがとうございました。



…いかがでしたか? 「一年の計は元旦にあり」何事も始めが肝心です。新しい年の始まりに、是非何かにチャレンジしてみてください。

コタカ先生は、毎朝の日課として、次の言葉を心に誓っていたようです。「今日一日腹を立てぬこと」「今日一日不平を言わぬこと」「今日一日うそを言わぬこと」「今日一日人の悪口を言わぬこと」「今日一日何事にも感謝すること」です。今からでも遅くありませんよ。こうした心の誓いは皆さん自身の心がけ次第で誰でもができることです。一度に全部と言わず、一つずつでも結構。いつも明るい、正しい、そしてどんな人からも親しまれる円満な人格を創り上げるために、生まれつき顔や姿はどのようになりませんが、私たちの心はどんなにでも変えることができるのです。どうですか、今からでも…。目指すは日本一の『心美人』! 2021年の始まりです。

## 【「2021 君たちの今年の漢字は?」…2020年の漢字は「密」】



毎年恒例の今年の漢字。2020年は「密」。2位以下にも世相が表れている。2位は「禍」。…「コロナ禍」という言葉が広く使用され、熊本の豪雨災害や東京五輪延期という禍（わざわい）もあった。3位は「病」。…新型コロナウイルス感染症という疫病が流行。逼迫（ひっぱく）する医療を支える病院関係者への感謝の声も聞かれた。何ともネガティブになってしまいそうです。



そんな中、嵐山で行われた「書初め大会」。2021年は、夢と希望に満ちた明るい年になってほしいものです。さて、君たちの2021、今年の漢字は何でしょうか?

## 【「私たちの自然を守ろう」コンクール・作文部門 会長賞受賞!】

第36回「私たちの自然を守ろう」コンクール・作文部門（公益財団法人 埼玉県生態系保護協会）において、中学2年の村中彩桜さんが、会長賞を受賞しました。

このコンクールは、身近な自然が減ったいま、子どもたちが自然を深く知り自然と共存することの大切さを実感するために開催しています。

嵐山生の皆さん、これを機会に、どうしたら自然と共存した美しいまちになるのか、考えてみてはいかがでしょうか。村中さん、おめでとう!



## 【美術部のコンクール表彰!】

～受賞おめでとうございます～

この度、愛鳥週間用ポスター原画コンクールにおいて、中学では3年の栗原未来さんと近江愛歩さんが、高校では2年生の加藤寿々奈さんが優秀賞として入選いたしました。おめでとうございます。

さらに、花とウォーキングのまちの平和賞では、高校1年の金子純女さんが最優秀賞、同じく高1の金岡きさらさんが優良賞に入賞いたしました。皆さん、受賞おめでとうございます。

中3 栗原未来

近江愛歩

高2 加藤寿々奈

高1 金子純女

金岡きさら

